

第 31 回 歯 科 衛 生 研 究 会

平成 21 年 7 月

講 演 抄 録 集

日 時 / 平成 21 年 7 月 15 日 (水) 午後 4 時 30 分

会 場 / 日本歯科大学新潟生命歯学部アイヴィホール

日本歯科大学新潟短期大学

歯科衛生研究会

会 長 小菅直樹

副 会 長 近藤敦子、宮崎晶子

実行委員長 高橋正志

企画運営委員 中村直樹、浅沼直樹、佐藤律子、土田智子、原田志保、三富純子

庶務連絡委員 佐藤治美、筒井紀子、菊地ひとみ、坂井由紀、吉富美和

事務担当委員 前川 岳、丸山早苗

[一般講演・講演者の方へ]

- 1) コンピュータで投影をする方は、発表データをUSBフラッシュメモリーまたはCD-Rにてご持参ください。
- 2) 当日午後2時30分から、コンピュータ投影テストおよび予備ノートパソコンへのデータの保存を行いますので、データを持ってお集まりください。
- 3) 一般講演の発表時間は8分（予鈴7分で青ランプ、終鈴8分で赤ランプ）、討論時間は4分です。
- 4) その他のお知らせ事項は、当日受付で致します。

第31回 歯科衛生研究会プログラム

日時 平成21年7月15日(水) 16時30分～18時29分

会場 日本歯科大学新潟生命歯学部 アイヴィホール

<16:30-16:35>

「開会の辞」

シンポジウム：『知りたい！！ 専攻科』

座長 中村直樹

<16:35-17:05>

1. 歯科衛生士教育の現状と将来

～専攻科で何を学ぶのか～

荒井 桂 (日本歯科大学新潟短期大学・学科長)

<17:05-17:25>

2. 専攻科で学んだこと

～2年間を振り返って～

菊地ひとみ (日本歯科大学新潟短期大学・助手)

<17:25-17:45>

準備・総合討論

<17:45-18:00>

感謝状の授与・休憩

一般講演

座長 渡部 泉

<18:00-18:12>

1. ヒトの大臼歯のエナメル突起の形成過程に関する一考察

○高橋正志¹、森 和久²、又賀 泉²

(¹新潟短期大学、²新潟生命歯学部口腔外科学講座)

<18:12-18:24>

2. H20年度 現任歯科衛生士教育の実際

～学術・研究活動への第一歩として～

○遠藤祐香¹、長谷川沙弥¹、坂井由紀¹、三富純子¹、近藤敦子²

(¹新潟病院歯科衛生科、²新潟病院総合診療科)

<18:24-18:29>

「閉会の辞」

<p>シンポジウム：「知りたい！！ 専攻科」 歯科衛生士教育の現状と将来 ～専攻科で何を学ぶか～</p>
<p>新潟短期大学・学科長 ○荒井 桂</p>
<p>本学は昨年度創立 25 周年を迎えました。最初 は新潟歯学部附属新潟専門学校でスタートしま した。そして、さらにそれを発展させて昭和 62 年に新潟短期大学を設立しました。設立当初は 2 年制でスタートしましたが、平成 14 年には全国 の短期大学に先駆けて教育制度を改革し、教育内 容の充実・介護福祉に貢献し得る歯科衛生士を育 成するため、3 年制に移行しました。</p> <p>さらに、卒業後のさらなる資質の向上のため、 平成元年に臨床研修歯科衛生士の制度を設け、歯 科衛生学科で学んだ基礎的知識の上に、更に高度 な技術を修得して応用能力をそなえた歯科衛生 士を育成することとしました。さらに、それを発 展させて平成 9 年に専攻科歯科衛生学専攻を設 置しました。</p> <p>専攻科は当初 1 年制でスタートしましたが、さ らなる資質の向上に向けて、発展的に改組し、平 成 17 年に 2 年制のコースも導入し、2 つのコー スを選択できるようにしました。第一のコースは 1 年制であり、これは歯科衛生学科で学んだ基礎 的知識の上に、更に専門的知識および高度な技術 を修得して、応用能力をそなえた歯科衛生士を育 成することを目的とします。第二のコースは 2 年 制です。これは、歯科衛生学科で学んだ基礎的知 識の上に、さらに専門的知識および高度な技術を 学ぶとともに、明星大学（平成 21 年度生からは 淑徳大学）の第 3 学年に編入学し、その通信教育 部におけるカリキュラムを修得し、学士の資格を 取得して指導者となりうる歯科衛生士を育成す ることを目的とします。</p> <p>このような過程を辿って、本学は次の 50 周年 に向かって新たなスタートラインにつきました。</p> <p>これらの過程と専攻科歯科衛生学専攻の概要 について述べたいと思います。</p>

<p>シンポジウム：「知りたい！！ 専攻科」 専攻科で学んだこと ～2 年間で振り返って～</p>
<p>新潟短期大学・助手 ○菊地ひとみ</p>
<p>私は将来、教育の現場に携わりたいと思ってい ました。歯科衛生士という職業が第一希望ではな かったが、本学在学中に、専攻科 2 年制コースに 進学すると歯科衛生士教員になれると聞き、専 攻科に進むことを決めた。</p> <p>専攻科 2 年制コースでは、明星大学の通信教育 で心理・教育学を学び、短大で専門的科目・臨床 研修・教育研修を学ぶ 2 つのカリキュラムが ある。</p> <p>明星大学では、レポート・試験・スクーリング の 3 つの方法から心理・教育学を学び、学士（教 育学）の資格を修得する。</p> <p>専門的科目では、手話講座、歯科衛生予防処 置特論、高齢者歯科特論、生命科学演習、科学論 文論を受講する。次に、臨床研修では、歯科衛生 士学科で学んだ基礎知識の上に、さらに専門的知 識および高度な技術を修得する。そして、教育研 修では、歯科衛生士として習得した専門知識・技 術および態度を、歯科衛生士教育の実習現場で実 際に適用する体験を通じて、学生に対する理解を 深め、教育に必要な実践的能力および自己教育力 を形成する。</p> <p>専攻科の 2 年間では、病院と明星大学との両 立が大変な時期もあった。また、教育実習におい ては、教える立場になって“人に教える”ことの難 しさや緊張感を感じた。そして、インストラク ターとして授業に初めて参加し、学生との接し方 についても考えさせられた。本当に専攻科を選ん で良かったのか迷うこともあったが、歯科衛生 士教員の先生方や、病院の指導医・指導衛生士の 理解もあり、実りの多い専攻科生活を送ることが できた。そして現在、かたちは違うものの教育に 携わることができ、教えることの喜びや楽しさ を感じている。</p> <p>現在、進路に迷っている人、既に進路を決 めている人に共通して言えるのは、「進路を選 択する時には、目的を持つことに意義がある」と いうことである。そこで、失敗や悩みがあっ たとしても、目標があれば前に進める。自分 が何をしたいのか、どうなりたいのか考 えて、これからの進路を決めていただければ 幸いです。</p>

ヒトの大白歯のエナメル突起の形成過程に関する一考察	
新潟短期大学 新潟生命歯学部口外	○高橋正志 森 和久、又賀 泉
<p>【目的】 ヒトの大白歯にみられるエナメル突起の表面形態と組織構造を詳細に検討し、エナメル突起の形成過程について考察した。</p> <p>【材料と方法】 抜去後、ただちに10%中性ホルマリンで固定した、エナメル突起のみられるヒトの大白歯を使用した。エナメル突起を含む水平方向の連続研磨標本を作製し、偏光顕微鏡と位相差顕微鏡で観察した。エナメル突起を含む歯冠頰側面の詳細な形態を、定法により、S-800型走査電顕(日立)で観察した。</p> <p>【結果】 走査電顕で観察すると、エナメル突起と連続する隆線である臼歯稜は堤防状に豊隆していたが、いくつかのコブ状に特にふくらんだ部分があった。臼歯稜では、周波条が咬頭側に軽く凸彎していた。臼歯稜は頰側面溝とは連続せず、近遠心に少しずつ、下顎大白歯ではやや遠心にずれるものが多かった。臼歯稜をさらに咬頭頂の方へたどると、頰側面溝に沿って伸びる頰側面隆線を構成する小さな隆線に連続し、咬頭頂付近まで伸びる場合もあった。臼歯稜とエナメル突起の移行部の水平方向の研磨標本を位相差顕微鏡で観察すると、根面溝に対応するエナメル・象牙境の陥凹の中央から始まるエナメル小柱は、臼歯稜の頂点から少しはなれたエナメル質表面に達した。エナメル突起の中央部と先端部の水平方向の研磨標本を偏光顕微鏡で観察すると、エナメル突起は根面溝の中央にあるのではなく、根面溝に対して臼歯稜がみられる側に少し寄っていた。</p> <p>【考察】 今回の観察結果から、エナメル突起の形成過程を復元すると次のようになる。エナメル突起は、まず咬頭頂付近で頰側面隆線を構成する小さな隆線として始まる。これが頰側面溝に沿って下降し、発達して臼歯稜を形成する。次に、臼歯稜を形成してきた一塊のエナメル芽細胞層だけが歯頸部付近で根面溝の方へ移動し、ほぼ根面溝に沿って下降しながらエナメル質を形成し続け、その結果エナメル突起が形成される。エナメル突起の部分では、エナメル・象牙境が凹彎しているにもかかわらずエナメル質表面が凸彎しており、歯の発生学上矛盾した組織構造を示すが、筆者の仮説にもとづけば、エナメル突起を形成する一塊のエナメル芽細胞層は、元来隆線を形成してきたものであるということになり、この現象を合理的に説明できるものと思われる。</p>	

H20年度 歯科衛生士教育の実際 ～学術・研究活動への第一歩として～	
新潟病院歯科衛生科 新潟病院総合診療科	○遠藤祐香, 長谷川沙弥 坂井由紀, 三富純子 近藤教子
<p>【はじめに】 第30回歯科衛生研究会でご報告させていただいたように、歯科衛生科は、H20年度より個々のレベルアップ、科全体の意識改革を行うべく、目的別グループ活動を行ってきた。我々学術研究グループは、歯科衛生士関連学会にて、学術研究発表を行うための基盤を作ることを目的に活動し、その一環として、現任・新人歯科衛生士教育を企画・実施したので、報告する。</p> <p>【対象】 日本歯科大学新潟病院歯科衛生科 26名</p> <p>【活動内容】 学術・研究グループでは、平成20年度新人・現任歯科衛生士教育として、①口腔内写真撮影およびパソコンへの取り込み方法、②論文の書き方および文献検索の方法、③パワーポイントの使用方法を企画し、実施した。①②は資料を作成・配布し、③は講義形式で行った。</p> <p>また、そのフィードバックを得るため、平成21年3月に見やすさ・内容・理解度の3項目を優・良・可・不可の4段階で評価していただいた。</p> <p>【活動結果】 ①②の資料は、各診療科に1部ずつ配布した。そのためか、歯科衛生士一人ひとりが確実に目を通したのかが不透明であった。</p> <p>また、すべての教育項目において、目標に対する、具体的な評価方法を決定していたものの、実施には到らなかった。</p> <p>当グループの歯科衛生士教育に対する評価は優・良がほとんどで、不可という評価はなかった。また、参考になった、解りやすかったという意見の一方で、まだ実際に経験していないため、理解できているか分からないとの意見も見られた。</p> <p>【考察】 ①②の資料を各診療科に配布したが、全員には周知されていなかった。これは、こちらのアピール不足と思われる。教育であるため、企画段階で評価方法を決定したが、評価すべき対象が、評価者に対して多数であったこと、実践する機会が個々によってまちまちであったことから、実施することができなかったと考えられる。</p> <p>今後、歯科衛生研究会や歯科衛生士関連学会での発表などを経験することで、理解不足な点や、要望などが明確化されると考えられ、その意見を参考に、活動していきたい。</p>	

次回の「歯科衛生研究会」は平成 22 年 3 月 10 日に開催する予定です。
多数の講演の申し込みをお待ちしています。
